

平成 23 年度 課題研究成果報告書

平成 26 年 4 月 21 日現在

研究種目： I

研究期間：平成 23 年～平成 24 年（2 年間）

研究課題名：在宅虚弱高齢者における転倒恐怖の軽減効果

研究代表者

氏名：能村友紀

所属：新潟医療福祉大学医療技術学部

会員番号：6159

研究成果の概要：

本研究は、在宅虚弱高齢者の転倒恐怖の軽減効果を検証することを目的とした。第 1 研究では転倒恐怖と身体活動量および健康関連 QOL との関連について検討し、歩数が低い女性高齢者は転倒恐怖が影響していた。また転倒恐怖を保有する高齢者は、3METs 以上の身体活動量と健康関連 QOL が低下していることが示された。第 2 研究では身体活動量を改善する作業療法プログラムを実施し、現在介入効果について検証している。

助成金額（円）：1,000,000 円

キーワード：高齢者，転倒恐怖

1. 研究の背景

高齢者が転倒恐怖を持つと身体活動の制限を引き起こし、QOL を低下させると報告されている¹⁾。しかし身体活動量低下との関連や身体活動の改善による転倒恐怖の軽減効果は十分に明らかにされていない。

2. 研究の目的

在宅虚弱高齢者の転倒恐怖と身体活動量および健康関連 QOL の関連を検討する。

3. 研究の方法

通所サービスを利用している高齢者を対象に、転倒恐怖と身体活動量（歩数、METs）、健康関連 QOL を測定し、比較検討した。

4. 研究成果

歩数が低い女性高齢者では転倒恐怖が影響していた。また転倒恐怖を保有している者は 3METs 以上の身体活動と健康関連 QOL が低下していることが示された。

5. 文献

1) Lachman ME, et al. Fear of falling and activity restriction: The Survey of activities and fear of falling in the elderly (SAFE). J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci 53: 43-50, 1998

6. 論文掲載情報

1) 能村友紀，二木淑子：通所サービス利用高齢者の歩行活動量を基準とした身体活動特性の探索的検討—通所日と非通所日の比較—。作業療法。32(2)：2013；244-255

2) 能村友紀，二木淑子：要介護高齢者の転倒恐怖感は身体活動量と健康関連 QOL を低下させるのか。PT-OT-ST Channel Online Journal, Vol.2 No.4 A2, 2013

7. 研究組織

(1) 研究代表者

氏名：能村友紀

所属：新潟医療福祉大学医療技術学部

会員番号：6159

(2) 共同研究者

氏名：二木淑子

所属：京都大学大学院医学研究科

会員番号：1648